「看護課題の探究」　成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

常磐大学　看護学部看護学科

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59～0 点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評　価　基　準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）「看護課題の探究」および「統合実習」において取り組むべき課題を選択できる。	課題設定能力	明確で探究可能なテーマを、自らの学修との関係からのみならず、社会的なニーズからも検討し、設定できる。	明確で探究可能なテーマを、自らの学修との関係から設定し、看護分野の現状を踏まえて適切に取り上げることができる。	明確で探究可能な課題を、自らのこれまでの学修との関係から設定できる。	探究可能な課題を、自らの学修課題として設定できる。	課題の幅が広く、探究すべきテーマを設定できない。
（2）選択した課題について、データベースで文献を系統的に収集できる。	情報収集力	多様なデータベースを使用し、課題に関連した豊富な文献を収集できる。	複数のデータベースを使用し、課題に関連した十分な文献を収集できる。	データベースを使用し、課題に関連したいくつかの文献を収集できる。	データベースを使用し、文献を収集できているが、課題との関連性が低い文献を収集している。	データベースを使用することができず、関連性や本質にかけた文献を収集している。または文献の収集ができない。
（3）収集した文献のうち、重要な文献を選び、文献カードまたはマトリクスをつくることができる。	文献選択力	収集した文献から、重要な文献を選び、さらに関連する文献に視野を広げて文献を選択できる。	収集した文献から重要な文献を選択できる。	収集した文献から、課題に関連の深い文献を選択できる。	収集した文献から、課題に関連した文献を選択できる。	収集した文献から、課題に関連した文献を選択することができない。
	調査・資料作成能力	文献カードやマトリクスを作成することで、課題の主要なキー概念についての課題を把握している。	選択した文献の、文献カードやマトリクスを作成し、そこから、統合実習における援助方法など、具体的な示唆を得ている。	選択した文献の、文献カードやマトリクスを作成し、自ら設定した課題への示唆を検討している。	選択した文献について、文献カードやマトリクスを作成している。	選択した文献について、文献カードやマトリクスを作成することができない。
（4）文献検討を通して、問題を焦点化し、「統合実習」の課題と目的を記述できる。	分析能力	文献の内容を正確に理解でき、そこから得た知識を関連づけ、自分の統合実習の課題を焦点化し、目的を論理的に表現できる。	文献の内容を正確に理解でき、そこから得た知識に関連づけて、を自分の統合実習の課題・目的を焦点化し表現できる。	文献の内容を理解でき、そこから得た知識を自分の統合実習で明らかにすべき課題問題に関連させて、課題・目的を記述できる。	文献の内容から得た知識を自分の統合実習での課題・目的を記述できる。	教員の助言があっても、文献の内容について十分な理解ができず、自分の統合実習の課題の焦点化ができない。
（5）「統合実習」において実践可能なプロジェクト計画を立てることができる。	計画力	文献検索から実習の方法までを、論理的に記載することができる。	文献検討結果を端的にまとめることができ、多様な観察内容や援助方法を計画に記載できる。	文献検討結果を実習での観察や介入方法に取り込み、設定した課題の解決に寄与する計画が記載できる	課題設定の背景、実習目標、実習方法について、記載できる。	課題設定の背景、実習目標、実習方法について記載できない。

到達目標	評価項目	評　価　基　準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（6）「統合実習」において収集したデータを適切に分析し、結果を作成できる。	分析能力	データを焦点に沿って適切な方法で分析できる。	得られたデータを適切な方法で分析できる。	得られたデータを、類似点・相違点・パターンなど何らかの観点から分析できる。	得られたデータを何らかの観点から検討できる。	得られたデータを分析することができない。
	文章作成力	適切な図表も用いて結果としてわかりやすく記載している。	結果として過不足なくわかりやすく記載している。	結果としてわかりやすく記載している。	わかりにくいが結果として記載している。	データを記載することに終始している。
（7）得られた結果について、考察し、自分の考えを述べることができる。	考察力	得られた結果について、情報の分析や文献との関連に基づき、論理的整合性を持った、かつ優れた考察（自分の考え）を述べている。	得られた結果について、情報の分析や文献との関連に基づき、論理的整合性を持った考察（自分の考え）を述べている。	得られた結果について、おおむね情報の分析や文献との関連に基づき、論理的整合性を持った考察（自分の考え）を述べている。	論理的整合性に欠ける部分はあるが、おおむね情報の分析や文献との関連に基づいて考察（自分の考え）を述べている。	情報の分析に基いておらず、論理的整合性に欠ける。また自分の考えを述べられていない。
（8）決められた形式で報告書にまとめることができる。	文章作成力	形式に不備がない。伝達したい内容を的確にまとめることができている。	決められた形式で、誤字脱字等の不備もなくまとめることができている。	決められた形式でまとめることができているが、誤字脱字や段落が区切られていない箇所が数カ所ある。	決められた形式でまとめているが、誤字脱字や段落が区切られていない箇所が目立つ。	決められた形式でまとめられない。また、表現したい内容を文章化できていない。
（9）わかりやすい発表用媒体と原稿を作成し、発表できる。	発表用媒体作成力	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、効果的に聴衆に伝わるよう工夫（色やフォント等）されている。	主張や論点がテーマに沿う形で提示され、伝えたい内容の要点が提示されている。	必要な内容を含み、時間内に発表できる分量で構成されている。また主張や論点がテーマに沿って提示されている。	必要な内容（はじめに、目的、方法、結果、考察、結論）を含み、構成されているが、主張や論点とテーマとの関連が明確でない。	必要な内容（はじめに、目的、方法、結果、考察、結論）が含まれていない。または、テーマにあわない主張や論点を提示している。
	プレゼンテーション力	聴衆に目線を合わせるなど、発表者の話術により、より説得的に伝えることができる。	時折聴衆に目線を合わせ、伝えたい内容を効果的に伝えることができる。	伝えたい内容を、時間内に伝えることができる。	時間を超過したり、伝わりづらい部分はあるが、プレゼンテーションを行える。	プレゼンテーションを行うことができない。
（10）全プロセスにおいて、教員、学生、臨地スタッフから意見を聞き、建設的議論をすることができる。	議論展開力	教員、学生等から得られた意見を参考に、課題に関して建設的な議論を展開できる。	教員、学生等から得られた意見を参考に、課題に関する議論を展開できる。	教員、学生等からの意見を参考にし、課題に関する意見を述べることができる。	教員、学生等からの意見を参考にすることができる。	教員、学生等からの意見を聞き入れ、議論することができない。
（11）全プロセスにおいて、主体的に取り組むことができる。	主体性	課題を提示される前に、自ら課題を見つけ、好奇心をもって取り組むことができる。	課題を提示される前に、自ら課題を見つけ、取り組むことができる。	提示された課題について、理解しようと積極的に取り組むことができる。	提示された課題について、自ら取り組むことができる。	提示された課題について、自ら取り組むことができない。

※評価の割合は、（1）から（9）を6割、（10）（11）を4割とする。